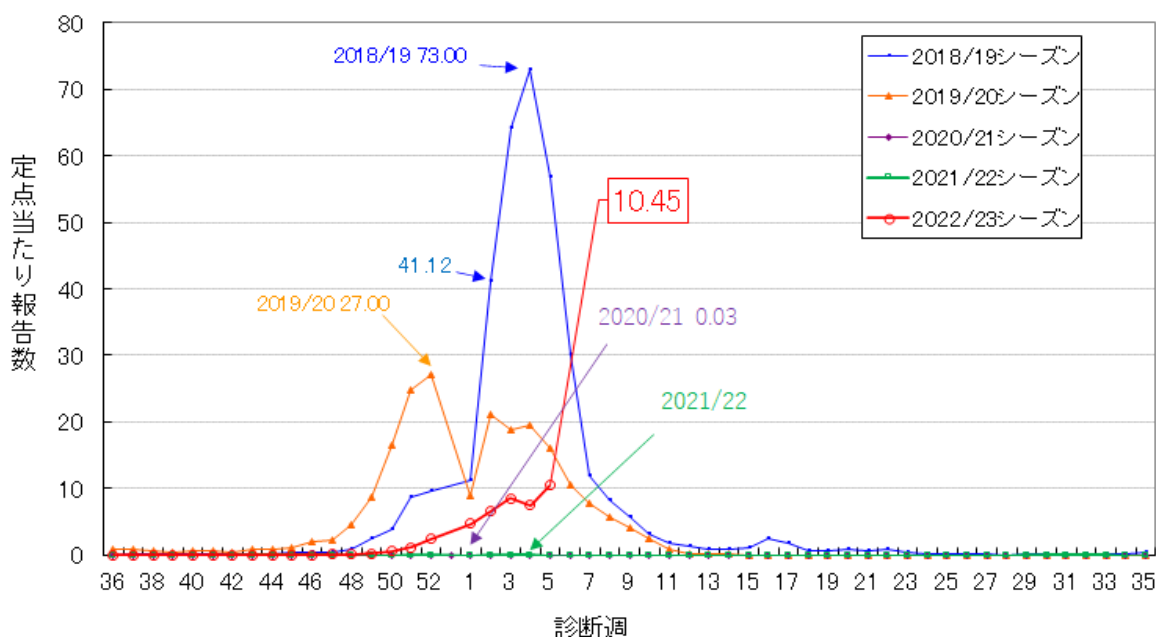


【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》

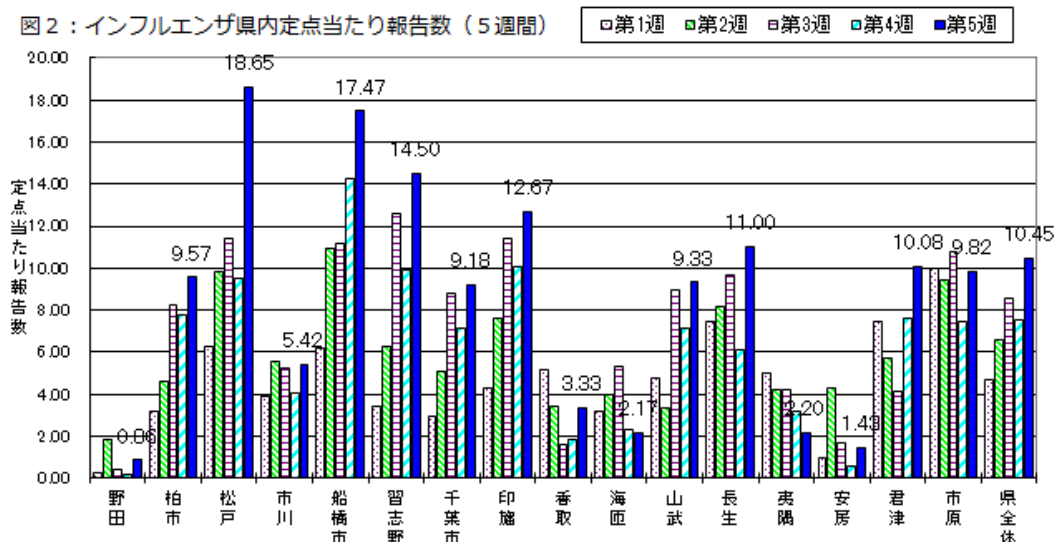
2023年第5週の県全体のインフルエンザ定点当たり報告数は、前週（2023年第4週）の7.49（人）から増加して10.45（人）となり、国が定める注意報基準値10.0（人）を超えた。注意報基準値を超えるのは、2019/2020シーズン以来、3シーズンぶりである。2018/2019シーズンから2022/2023シーズンまでの過去5シーズンのうち、特に患者報告数が多かったのは2018/2019シーズンであり、2019年第2週時点で定点当たり報告数41.12（人）となり、国が定める警報基準値（定点当たり報告数30.0（人））を上回る流行となった。新型コロナウイルス感染症の国内流行が始まった2020/2021シーズン、2021/2022シーズンは流行開始の目安とする1.0（人）を超えなかった。（図1）。

図1：千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数



保健所管内別では松戸18.65（人）、船橋市17.47（人）、習志野14.50（人）が多く、そのほか印旛、長生、君津で10.0（人）をこえた（図2）。

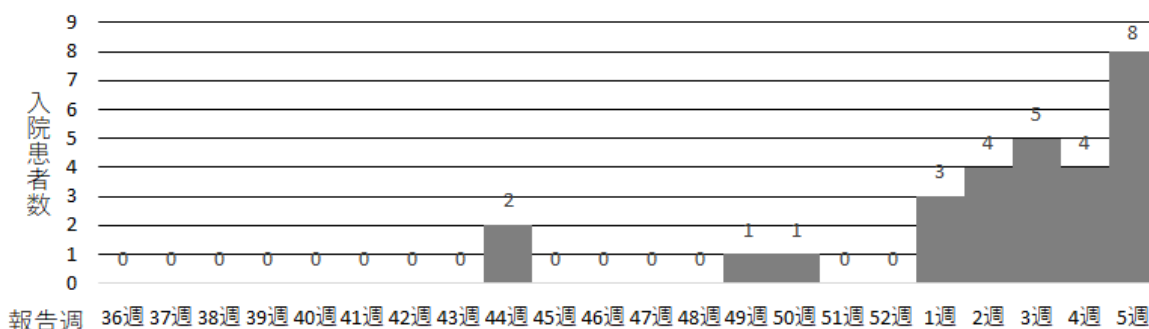
図2：インフルエンザ県内定点当たり報告数（5週間）



2023年第5週に報告のあった2216例のうち、A型1895例(85.5%)、B型18例(0.8%)、A型とB型両方陽性3例(0.1%)、型非鑑別キットで陽性127例(5.7%)、検査未実施(検査実施未確認例含む)173例(7.8%)であり、A型が多く検出されていた。

2022/2023シーズンの基幹定点医療機関を対象としたインフルエンザ入院サーベイランスによる入院患者総数は2022年第52週までは0～2人で推移していたが、2023年第1週以降は3～8人で推移しており増加傾向がみられている(図3)。

図3：2022年第36週から2023年第5週までの県内基幹定点医療機関におけるインフルエンザ入院患者数 (n=28)



2023年第4週時点で全国の定点当たり報告数は10.36(人)であり、注意報基準値を超えていた。近隣都県の定点当たり報告数は、埼玉県7.05(人)、東京都9.15(人)、神奈川県9.88(人)であった。

注意報レベルは、今後4週以内に大きな流行が発生する可能性が高い、もしくは流行が継続していると疑われることを指すことから、引き続きインフルエンザの予防対策を徹底していただきたい。

・基本的な感染対策

- 1 外出後の手洗い 2 適度な湿度の保持 3 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- 4 人混みや繁華街への外出を控える 5 室内ではこまめに換気する 6 咳エチケット

千葉県：インフルエンザから身を守ろう

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>